

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成31年 1月 16日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4673900082
法人名	医療法人クオラ
事業所名	グループホームアリエ
所在地	鹿児島県薩摩郡さつま町船木2311番地8 (電話) 0996-52-1262
自己評価作成日	平成31年1月16日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	平成31年3月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・職員が資格取得に向けて努力している。
- ・季節に応じて、なるべく全員参加ができる行事を計画している。
- ・年1回、家族会を開催し、ご家族様、ご利用者様、職員が親しく交流できる場を設けている。
- ・アリエ便りを年4回発行し、取組の報告を行っている。
- ・ご利用者様の特技を活かせる場を作っている。
- ・ご家族様と協力を行いながら墓参り等にも行っている。
- ・身体拘束、虐待が起きない様に普段のケアを振り返る機会を作り、意識づけに努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

さつま町市街地から少し離れた場所に位置し、目の前の国道は幹線道路で交通量も多いところである。

同敷地内にはホームの協力医療機関である母体法人の医療機関や介護老人保健施設や訪問介護事業所・訪問看護事業所が隣接している。また職員住宅や保育園も敷地内にあり、職員には働きやすい職場環境にある。

地域とは位置的には離れているが、地域の行事への参加やホーム行事に地域のボランティアの参加があったり、毎月開催されている行政と協働での健康教室「よろず塾」は利用者の楽しみになり、また地域との交流の機会となっている。

法人の理念とは別にホームの理念を掲げさらには年間の目標を作成し、年2回職員会議で振り返っている。ネームの裏にも理念を明記するなど、職員は意識を持ってケアの実践に取り組んでいる。管理者は「毎月1回は行事を入れている。基本駄目は考えない→出来るためには何をすればいいかを考える。利用者一人ひとりと目線を合わせる。」事を思っており、職員は「利用者の希望を叶えてくれるホームである」と感じている。ホーム理念である「私たちは、ご利用者様と共に暮らし共に寄り添う家族になります。」に繋げ思いは活かされている。

管理者は、家族とは日頃から意見が言い合える雰囲気作りに努め、意見や要望等を把握して運営やサービスの質の向上に取り組んでいる。職員の年間の研修も多くスキルアップが図られている。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	アリエ独自の理念がある。また、目標という形で地域密着・地域貢献への理念を掲げている。全体会等や申し送り時などに唱和し、意識づけを行っている。	法人の理念とは別に事業所の理念がある。理念とは別に目標を掲げ年2回のチーム会や毎月の職員会議で振り返っている。理念は玄関やホールに掲示し、職員のネームの裏にも明記されている。毎日の申し送り時の唱和で振り返り、理念を深め意義の共有を図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園の運動会、グループ内行事（夏祭り・踊り慰問）参加している。保育園の子供と気軽に挨拶したり、会話をされる。介護支援ボランティアの方との交流も大切にしている。	地域のイベントへの参加やボランティアや中学生の体験学習、看護学生の実習受入れも行っている。また保育園児との交流や、法人の医師を中心に健康教室「よろず塾」を開催したり、管理者とケアマネジャーは地域のキャラバンメイトとして地域貢献するなど、地域の一員として交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	認知症サポーター講座のキャラバンメイトとして、地域に向けて活動している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政、地域の方々、ご家族様から貴重な意見を頂き、参考にしている。事故について意見を頂く事もあり、会議等で再度検討し、向上に繋げている。	2ヶ月毎に定例化された会議では、事業所の現状報告・行事報告・事故事例報告等の状況説明や、問題点への取り組み報告が行われ、地域の情報収集を得るなど、参加者との意見交換の場となり、出された意見は職員に周知し話し合い、日常のサービス向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役場に出向いた時に会話をし、サービスの質の内容について話をしている。特記事項があった場合は、その都度報告している。また、運営推進会議も有効に活用している。	町担当者とは良好な関係を築いており、電話や直接出向いて相談助言を受けている。行政との協働での健康教室「よろず塾」の関係や、町主催の研修会に積極的に参加するなど、協力関係は築かれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年3月に身体拘束を含む全職員を対象とした研修が実施される予定である。詰所内に身体拘束廃止に関する掲示を行い、意識づけに努めている。事故対策でもご利用者の気持ちを第一に考え拘束が起きないケアに努めている。毎月、身体拘束に繋がる行為が無かったか、アンケートを取り上司に報告を行っている。	法人が行う倫理委員会には、身体拘束適正検討委員会での研修も行い、職員へは定期的な勉強会で正しく理解できるよう周知している。昼間の施錠は行わず、利用者の見守りや対話・寄り添いに努めている。不適切な言葉遣いやケアに対しては、職員間で注意し合い、利用者の行動に注意を払い見守っている等、日頃から身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年3月に権利擁護の研修が実施される。敬う気持ちを持つことを日々心掛け、日常から申し合わせている。毎月、会議で利用者との関わりを振り返る機会を作っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	頂いた資料などをファイルに綴じ、他職員が閲覧できるように設置している。毎年、権利擁護研修が行われている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	充分に説明を行っている。その上で質問があった際などは、しっかり答えられるようにしている。解約・改正の際はその都度説明するようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情等については、しっかり受け止め、フローチャートに沿って処理している。また、運営推進会議や家族会でも質疑応答を行い、定期面談を行い、個別意見を収集している。	利用者からは日常の会話やしぐさ、見守りの中から思いや意見の把握に、家族からは面会時や電話や家族会、また介護計画作成時に意見や要望の把握に努めている。管理者は話し易い雰囲気作りに努め多くの意見要望をもらえるよう努めている。出された意見要望については職員で話し合い、ケアの実践や運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会やチーム会議を中心に意見を聞いている。また、常日頃会話などで情報交換を行い、その意見は、グループミーティングで上司に報告している。	日頃から職員とのコミュニケーションに努め、日々の申し送り時や職員会議等で意見や提案を聞いている。また必要に応じて個別の相談も受けている。出された意見・提案は話し合い改善を図っている。業務内容や協力について、購入物についての提案が出る。出された内容はリーダー会で検討し運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課表を作成し、職員が向上心を持って働けるよう取り組んでいる。平成27年度から個人の目標発表を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年内研修予定表を基に、様々な研修や内部(グループ)の研修に参加できるように計画されている。グループホーム協議会の研修など外部の研修にも参加している。介護福祉士取得に関しては事業所の補助金制度あり。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の協議会や主催する研修などを通じて意見交換をする機会を作っている。(いずみ川薩グループホーム協議会入会)(日本グループホーム協議会鹿児島県支部入会)		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の担当CM, 施設等から情報収集を行っている。職員が、入居前にご本人の状態確認に行ったり面談も行い顔見知りになり、ご安心頂ける様に努めている。入居時には歓迎会を開き、普段から傾聴に心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、ご本人の意見やご家族様の意見をお聞きし、何でも話せる信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	身体状況は変化が出てくることを契約時に説明し、現在のサービス以外も紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理の仕方(味付け等)を教えて頂きながら一緒に作業をしたり、昔の遊びや知恵、歌や踊り、大正琴を教えて頂いている。家庭菜園・季節の花植えも一緒に行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様へ定期的な連絡をしている。病院受診をお願いしたり、昔のご様子、趣味等をお聞きして職員と今後の生活に反映出来ないか検討している。イベント行事、家族会、ご本人のお誕生会へ参加の連絡を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様に、ご相談し、御親戚の方やお友達をアリエにお連れ頂く様にしている。お墓参りを計画し支援している。	利用者の入所前の生活歴や家庭環境、馴染みの関係や場所を把握し、情報を共有している。墓参りの支援や利用者の希望に沿って買い物やドライブに行ったり、家族の協力支援で外食や一時帰宅をされる方もいる。電話の取次ぎや掛けたい相手に掛ける事への支援など、関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全員レクリエーション等を行い、交流の機会を増やしている。トラブルが発生したら原因や状況を把握し、職員が双方の話を聞き解消に努め他のご利用者様に影響しない様に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に入院された方には、お見舞いをしたり、ご家族様とお会いした時は、話をしたりしている。他の施設に入所された時は面会に行くなどしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃のコミュニケーションからご本人様の希望や意見等を拾い上げるようにしている。ご家族様からの希望・意見の傾聴も行っている。記録は色を変えるなどして拾い上げやすい様にしている。	入所開始時の利用者や家族からの聞き取りでの情報収集や、日頃の言葉や表情・しぐさから思いや意向を把握している。利用者の意向に沿って、大正琴や囲碁・将棋等趣味を楽しんでもらうなど、心身の状況に配慮しながら本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居前にご本人様、ご家族様にお尋ねしている。又ご入居後も日頃の会話から生活歴などをお伺いしている。ご入居前のケアマネからも情報収集をおこなっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	看護介護記録、健康管理チェック表に目を通すなどして情報把握に努めている。重要事項は申し送りなどして情報を共有している。(サイボウズにて)		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃のご利用者様の思いや情報を踏まえた上で、職員同士で情報交換をしたり、チーム会議や全体会で話合っている。ご家族様のご面会時に伺ったり、訪問診療や外来受診等を利用して、医師・訪問看護師と連携している。毎月、ケア会議を実施している。	利用者や家族の意向や希望、主治医や関係者からの情報を基に職員で意見交換して、個々に応じた介護計画を作成している。3か月毎の定期的なモニタリングや、状態が変化した場合に話し合いのもとで現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報を共有し、見直しに活かしている。本人様の心理、自立支援を考え話し合いを行っている。特記事項は念入りに個別記録の作成を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	計算ドリル・数並べ・パズル等を活用したり、ラジオ体操、PT・OTから教えて頂いた運動、身体機能維持のためのアドバイスを実施している。クオラグループとしての強みを生かしている。訪問看護とも連携を取ってアドバイスを頂いている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通してのふれあい。介護ボランティアの方にもお越しいただいている。町内の体操教室に行く事がありそこで顔なじみの方と触れ合う事もある。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療を受診している。緊急時はグループ内の病院へ相談し、病院受診を行っている。ご家族様にはその都度、連絡を行い疑問がある際には直接医師から説明をするなど対応している。	本人・家族の希望するかかりつけ医となっているが、ほとんどの利用者は母体法人の医療機関が主治医となっている。定期訪問診療や他科受診など、家族と協力しながら支援している。受診結果は3ヵ月毎に「アリエ便り」で報告し、何かあればその都度連絡を取っている。24時間の医療連携は利用者や家族の安心に繋がっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護による週1回の体調チェックがあり相談しアドバイスを頂いている。病院受診や夜間帯などでは、病院看護師にも相談する。身体状況の定期報告も行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご本人の様子を直接見に行き状態確認を行ったり、病院のソーシャルワーカーと連携を取ったり、話し合いをしている。病状に合わせて必要時には他の医療機関と連携が取れるようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応を、契約時に行っている。看取りの指針を活用している。疼痛や苦痛を少しでも和らげる為、家族にも依頼し面会等で支えられるように努めている。状況の変化に応じて面談の機会を設けている。	重度化や終末期に向けた方針は、入所時に指針を説明し同意を得ている。利用者の身体状況に応じて家族と主治医・関係者と話し合い、方向性を共有して支援している。看取りの経験もあり、職員は看取りの研修も受けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成している。連絡網の活用の訓練を実施している。急変の場合に備え、上司・先輩職員が指導し確認を行っている。緊急の場合を想定し、他施設・社宅入居者からの協力が頂ける様にしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員立ち会いのもと年2回の避難訓練を実施。連絡網の訓練で強化している。出勤前には災害時のトレーニングを行い災害に備えている。さつま町社会福祉協議会防災対策協議会に年1回参加し、さつま町の福祉施設と意見交換し合ったり、他施設の訓練の見学を行っている。	昼夜想定避難訓練を消防署立ち会いで年2回実施している。自主訓練では、利用者が参加せず職員が中心となり避難経路や道具を利用者目線で確認している。同敷地内の法人や職員住宅との協力体制が築かれている。家族へは訓練時の様子を「アリエ便り」に写真で載せて確認してもらっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人のプライドやプライバシーを尊重し一人一人敬った声掛け、さりげない介助に努めている。日頃のケアの中では、先輩職員が指導を行っている。	利用者の人格の尊厳やプライバシーの確保についてはマニュアルが整備され、倫理委員会やケア会議で研修を実施しケアを振り返り、適切なケアの実践に取り組んでいる。日常での接し方や声掛けには敬意をもった対応、羞恥心やプライバシーの保護には特に配慮がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣類を自分選べるようにタンスに名前を書いてわかりやすいように工夫している。料理の本を見ながら職員と一緒に献立を決めたりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の生活のリズムに合わせた対応をしている。ご本人の訴えに沿い(言葉・表情・行動・態度から)支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	定期的に爪切り、耳掃除、髭剃りを行っている。外出時や必要時に化粧をしている。日頃からご本人様に洋服を選んで頂いている。2～3か月に1回の頻度で、美容師にきてもらい散髪をして頂いています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜切、盛り付けを職員と一緒に行って頂いている。食後のお皿拭きを手伝って頂いている。お誕生日会の時は、ご本人の好物の料理を提供している。介助の方も出来るだけ自力摂取ができるように見守りを行っている。	週のメニューが重ならない様に考慮しながら、各ユニット毎に栄養バランスや嗜好に配慮しメニューを作成している。力量のある利用者には楽しみながら、食材の下ごしらえや皿拭きなどの手伝いをもらっている。誕生日には利用者の好物を提供している、季節の行事食や手作り弁当で花見やピクニックに出掛けたり、ソーメン流しへ行ったり、家族で外食に行かれたりと、食事が楽しみとなるよう工夫している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	季節感のある、又栄養のバランスを考慮し献立を立てている。水分量や食事量のチェックを実施。必要時に栄養士にアドバイスをもらうようにしている。個別にトロミ食や刻み食・ミキサー食・お粥などで対応している。関連施設の栄養課の管理栄養士による勉強会も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施。うがいが出来ない方は口腔スポンジを使用し口腔内の清潔を保持するように努めている。必要時には歯科受診を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	記録などで排泄パターンを把握する。夜間は安心して排泄ができるように環境設備を行い、必要な方はポータブルトイレを使用している。介護計画書の内容に個別に記載している。新規入居者の方の排泄パターンを知る為、入居時より1週間モニタリング行っている。	排泄チェック表の活用や利用者のしぐさや表情等、個々のリズムを把握し言葉掛けや羞恥心に配慮しながら、可能な限りトイレで排泄できるように支援している。排泄用品の軽減に努めるなど、利用者個々の介護プランに盛り込まれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況を毎日チェックしている。排便が見られない時は、身体を動かしたり、食事内容の工夫、職員による腹部マッサージを実施している。長く排便が見られない時は医師や訪問看護師に報告、相談、指示受けしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	1日の基本的な流れはあるが、ご希望をお訊ねしながら入浴・清拭・足浴等をして頂けるようにしている。入浴剤を使用し気持ち安らぐようなひと時になるように工夫している。	基本的には週3回の入浴を利用者の体調や安全に配慮しながら支援している。入浴出来ない時には足浴や清拭に変更している。重度化された利用者の為に機会を導入し入浴を支援している。ポンタン湯や入浴剤を使用しゆっくりと気持ちよく楽しめる様取り組んでいる。遠方からの家族の帰省時に、家族といっしょに温泉に行かれる利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動性が上がるようレクレーションの内容も工夫し参加を促している。夜間、不安になられて休まない方がいたら飲み物をお出し、ゆっくり話せる環境作りをし、傾聴し安心してから休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬説明書で理解している。医師のご指示通り服薬の支援を行っており、訪問看護師とも連携している。一目で分かる様に一覧表を設置している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜切、料理の盛り付け、食器拭き、洗濯物たたみなどの役割作りをしている。歌や踊りを楽しめる環境づくり。庭で気軽にお茶が楽しめるようにテーブルや椅子などを設置している。個別に生活歴の中から趣味を生かし楽しみ事を見つけられるように支援行う。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご希望に沿ってドライブにお連れしたり・ご家族の協力を頂いての自宅への帰省・自宅周辺の散歩・お墓参り等の外出を促している。職員と一緒にゴミ捨ての手伝い、アリエ周辺の散歩、買い物にも出かけたたり本人のお好きな物を手に取り、お小遣いの中から購入して頂いています。	利用者の外出に対する意向を日常の会話を通じて把握に努め、健康状態や天候を見ながら、散歩やドライブ、買い物、一時帰宅や墓参りなどを家族の協力を得ながら取り組んでいる。地域行事への参加や花見・蛍観賞・外食にとユニット毎や全員で出かけている。家族の協力で外出される方もいる。今後は家族の協力支援をもらいながら多くの利用者が参加できるよう、取り組みを検討している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に、ご希望があれば、御小遣いを上限5千円として、お預かりしている。外出時にお金を自由に使えるようにし、ご本人のご希望にし添えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話のご希望時、職員が取り次いでお話をしている。遠方のご家族様には、職員よりご本人にお電話をおねがいしたり、お手紙をお願いしたりして取次ぎを行っている。ご本人の様子をアリエ便りや受け持ちからお手紙でお知らせしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、掃除を行っている。季節感が味わえるようにお花を飾るなどしている。ホールには天窓が有り、沢山の自然光を取り入れられる。トイレは汚れたら直ぐ清掃・消毒を行うようにしている。又芳香剤・消臭スプレーを使用する等の臭い対策をしている。	リビングホールの天井は高く天窓があり明るく開放的である。季節の花が飾られ壁には利用者の作品や写真の掲示がされ、また地域では有名な以前に利用者が打っていた「五つ太鼓」も置かれている。清掃・空調・臭気には十分配慮されており、穏やかで清潔感のある空間である。台所は見守りも兼ねて対面キッチンとなっており、調理の音や匂いは利用者の五感を刺激している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファをホール内に設置している。一人での空間も楽しめるようになっている。庭に椅子やテーブルを設置して、お茶のみや談笑が出来るようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人とご家族が話合われ、使い慣れたものや好みの物を持ち込んで生活されている。又湯呑・コップ・箸等、馴染みのものも個別に使用している。	利用者や家族には入所以前の使い慣れた物や家具の持ち込みを勧め、家具や布団・仏壇を持ち込まれ、壁には家族の写真を飾り自宅同様に居心地よく過ごせるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール内は要所部分に手すりをつけ、御利用者様が歩行されやすいように環境設備をしている。又各部屋に洗面所や押入れも設置し、自立に繋がる様に支援している。トイレがわかる様に案内板を設置している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない